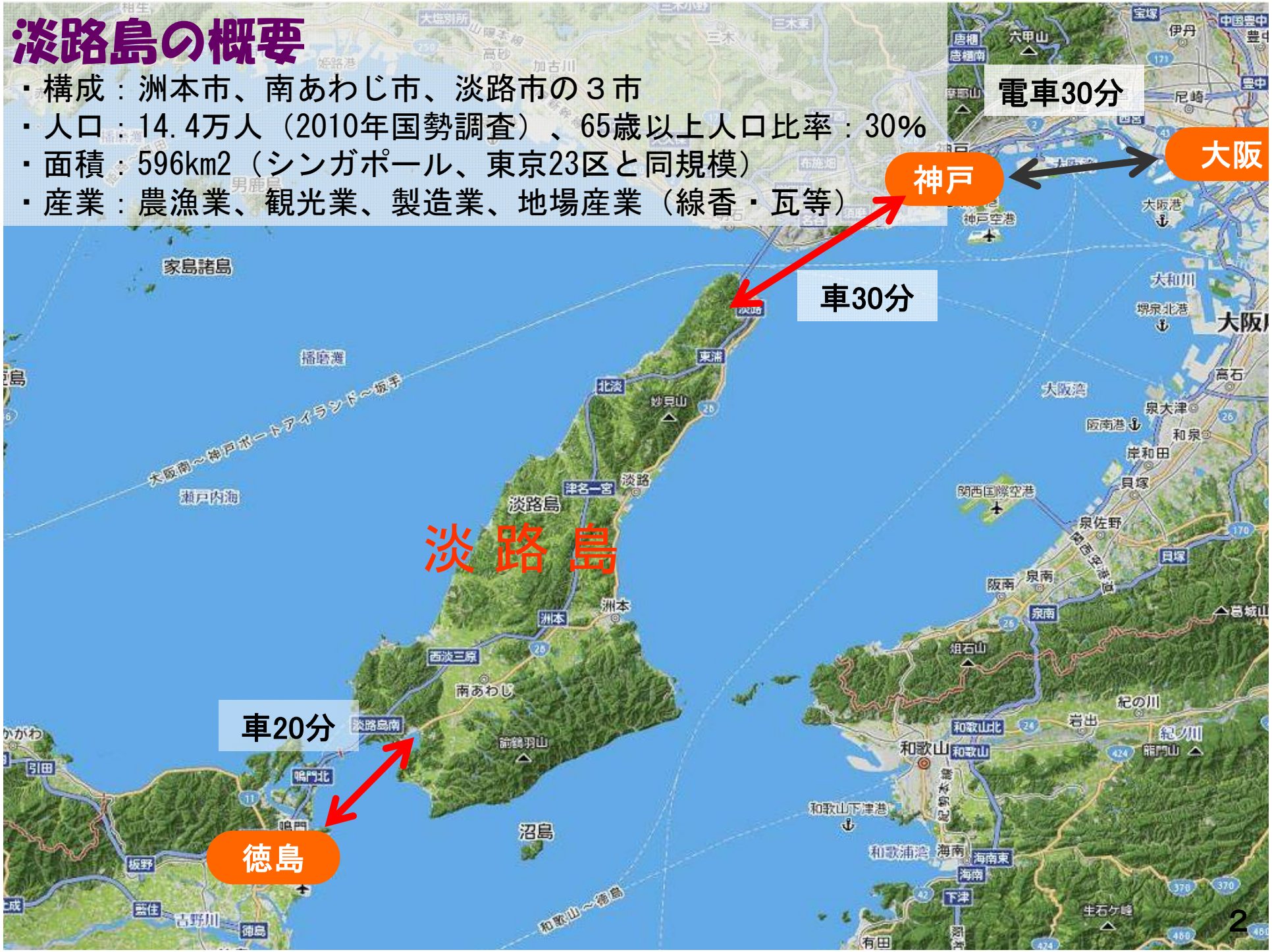
あわじ環境未来島構想

― 国生みの島からの日本再生 ―

兵庫県、洲本市、南あわじ市、淡路市

淡路島の概要

・構成：洲本市、南あわじ市、淡路市の３市
・人口：14.4万人（2010年国勢調査）、65歳以上人口比率：30%
・面積：596km2（シンガポール、東京23区と同規模）
・産業：農漁業、観光業、製造業、地場産業（線香・瓦等）



淡路島の現状とポテンシャル

厳しい現状

１　遅れた地域開発

海峡の存在により、県内の他地域よりも地域開発に遅れが発生

２　人口減少

- 平成12年から22年までの10年間で約10%減少（全県平均は0.7%増加）
- 2050年（平成62年）の推計人口は現状から半減（7.7万人）

３　経済縮小

- 平成20年度の域内総生産額は、平成13年度に比べて約15%減少（全県平均は３%増加）

高いポテンシャル

１　歴史的・文化的価値の蓄積

- 古事記や日本書紀に描かれた「国生み神話」の島、淡路人形浄瑠璃の伝承
- 皇室や朝廷に豊かな食材を提供した「御食国（みけつくに）」
- 農漁業を軸に蓄積された独自の知恵・文化

２　エネルギーと食料の自給自足が可能

高い食料自給率、温暖で豊富な日照、広大な未利用地が存在

３　良好なアクセス

京阪神大都市圏に隣接、関西国際空港等への良好なアクセス

構想のねらい

狙い①：「まち」から「むら」への未来モデルづくり

いままで

効率成長モデル（大都市中心）

〇社会基盤の充実
〇雇用、経済活動の集中
〇職住分離
〇人口流入、拡大

→効率、利便性を重視

これから

持続成長モデル（地方が主役）

〇エネルギー、食料自給自足
〇社会基盤のネットワーク化
〇職住近接のまちづくり
〇農業を核とした生活産業振興
〇地域の歴史・文化に根ざした暮らし

→生活の質を重視

狙い②：住民・企業・行政の協働で社会実験として推進

行政

住民

企業

淡路島で取り組む意義

～成功モデルを国内外へ発信～

地方の縮図の要素が凝縮

- 少子高齢化に加え、雇用の減少や後継者不足といった地方共通の課題を抱える
- 極めて日本的な風土を有し、農村・漁村・市街地が隣り合う「ミニ日本」

成果の見える化が容易

- 独立した島であるため、地域限定の規制改革や重点的措置を講じやすい
- 大都市圏に近接する絶好の立地条件であり、関西国際空港等にも近く、成果を目に見える形で発信することが容易

大都市依存の限界（超高齢化、高コスト）を乗り越える「まちからむらへ」の潮流形成

日本の地方の縮図の要素が凝縮された淡路の高いポテンシャルを生かし、成果をもとに持続可能な地域社会モデルを創出＝国内外への貢献

取組の３本柱と地域の将来目標

暮らしの持続

〇誰もが安心して生涯現役で暮らし続けられる

〇国内外から人が集い、交流と活力が広がる

生命つながる「持続する環境の島」

エネルギーの持続

〇地域資源を生かした再生可能エネルギーのベストミックス

〇豊かさエネルギー消費の両立

農と食の持続

〇農と食の志をもった人材が学び、育つ

〇安心と健康を支える食の生産・供給拠点

総合特区制度の活用

総合特区とは

- 　先駆的取組を行う実現性の高い区域に国と地域の政策資源を集中
- 　地域の包括的・戦略的なチャレンジを総合的（規制・制度の特例、税制、財政、金融措置）に支援
- 　わが国の経済成長のエンジンとなる産業・機能の集積を図る「国際戦略総合特区」と地域資源を最大限活用した地域活性化を図る「地域活性化総合特区」の２種類の総合特区を制度化

あわじ環境未来島特区の指定（23.12.22）

- 　あわじ環境未来島構想に盛り込まれた各種プロジェクトのうちから熟度の高い取組を「地域活性化総合特区」として申請
- 　今後、総合特区の仕組みを活用し、国の支援を得て事業化を推進

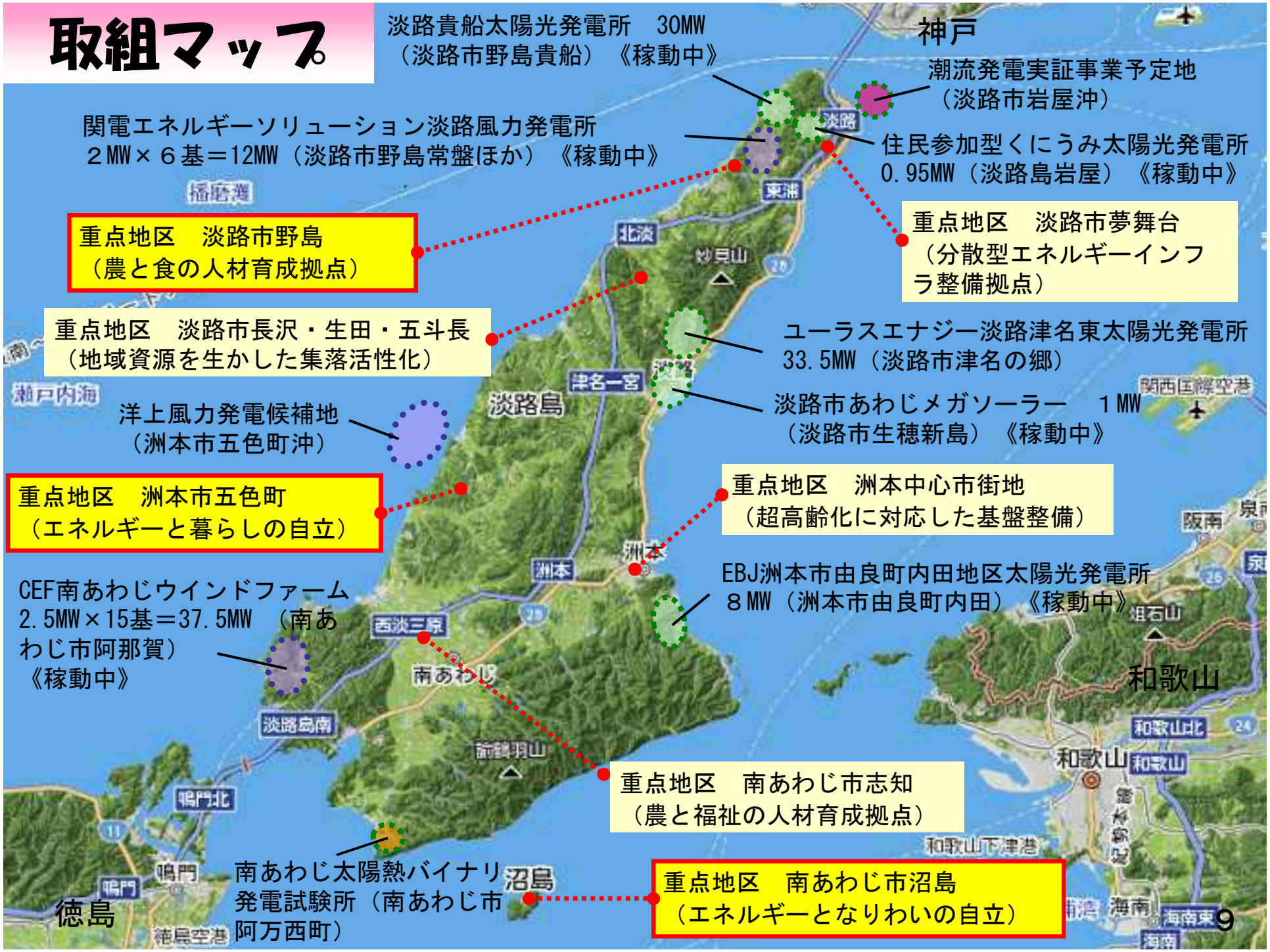
数値目標の設定

	成果指標	淡路島 現状	特区目標	あわじ環境未来島構想の目標		
			2016年	2020年	2030年	2050年
エネルギーの持続	エネルギー（電力）自給率	16% （2013年）	17%	20%	35% 国目標20%	100%
	二酸化炭素排出量（1990年比）	▲39% （2013年）	▲32%	▲39% 国目標▲25%	▲55%	▲88% 国目標▲80%
農と食の持続	食料自給率（生産額）	329% （2011年）	―	300%以上 国目標70%	300%以上	300%以上
	食料自給率（カロリー）	112% （2011年）	―	100%以上 国目標50%	100%以上	100%以上
暮らしの持続	生活満足度（幸福度）※１	59% （2012年）	―	60%	70%	90%
	持続人口（定住人口＋交流人口）※２	17万１千人 （2012年）	16万７千人	16万６千人	16万３千人	16万８千人

※1 「美しい兵庫指標」県民意識調査

※2 淡路島の定住人口推計値は50年に7万7千人（▲46%）。目標設定ではこれを減少率が約半分の10万7千人とする。交流人口はツーリスト365分の1又は365分の2（日帰り・宿泊の別）、二地域居住者7分の2で定住人口に換算。

取組マップ


淡路貴船太陽光発電所　30MW
（淡路市野島貴船）《稼動中》
神戸
潮流発電実証事業予定地
（淡路市岩屋沖）
関電エネルギーソリューション淡路風力発電所
２MW×６基＝12MW（淡路市野島常盤ほか）《稼動中》
住民参加型くにうみ太陽光発電所
0.95MW（淡路島岩屋）《稼動中》
重点地区　淡路市野島
（農と食の人材育成拠点）
重点地区　淡路市夢舞台
（分散型エネルギーインフラ整備拠点）
重点地区　淡路市長沢・生田・五斗長
（地域資源を生かした集落活性化）
ユーラスエナジー淡路津名東太陽光発電所
33.5MW（淡路市津名の郷）
淡路市あわじメガソーラー　１MW
（淡路市生穂新島）《稼動中》
洋上風力発電候補地
（洲本市五色町沖）
重点地区　洲本市五色町
（エネルギーと暮らしの自立）
重点地区　洲本中心市街地
（超高齢化に対応した基盤整備）
EBJ洲本市由良町内田地区太陽光発電所
８MW（洲本市由良町内田）《稼動中》
CEF南あわじウインドファーム
2.5MW×15基＝37.5MW　（南あわじ市阿那賀）
《稼動中》
重点地区　南あわじ市志知
（農と福祉の人材育成拠点）
南あわじ太陽熱バイナリ発電試験所（南あわじ市阿万西町）
重点地区　南あわじ市沼島
（エネルギーとなりわいの自立）
淡路島
洲本
南あわじ
沼島
和歌山
徳島
播磨灘
瀬戸内海
関西国際空港
淡路
東浦
北淡
津名一宮
西淡三原
淡路島南
鳴門北
鳴門
徳島空港
和歌山
和歌山北
和歌山下津港
海南
海南東
阪南
泉南

主なプロジェクト（エネルギーの持続）

広大な土取り跡地等を再生する大規模太陽光発電所の整備

淡路貴船太陽光発電所
（淡路市）

大阪湾岸に埋立土砂を供給してきた島から21世紀の地域持続を支えるエネルギーを供給（場所：島内各所）

強い潮流を生かした潮流発電

日本有数の潮流がある３つの海峡部での潮流発電を検討
（場所：周辺海峡部）

（潮流発電の事例）
Hammerfest Strom（ノルウェー）

高効率太陽熱発電の実証

風力・太陽熱・バイオマスを組み合わせたバイナリー発電に関する技術開発を実証
（場所：南あわじ市）

トラフ型太陽熱発電の事例

強い西風を生かした風力発電

西岸の強い西風、遠浅の海を活用し、未利用地や洋上における風力発電を検討
（場所：洲本市）

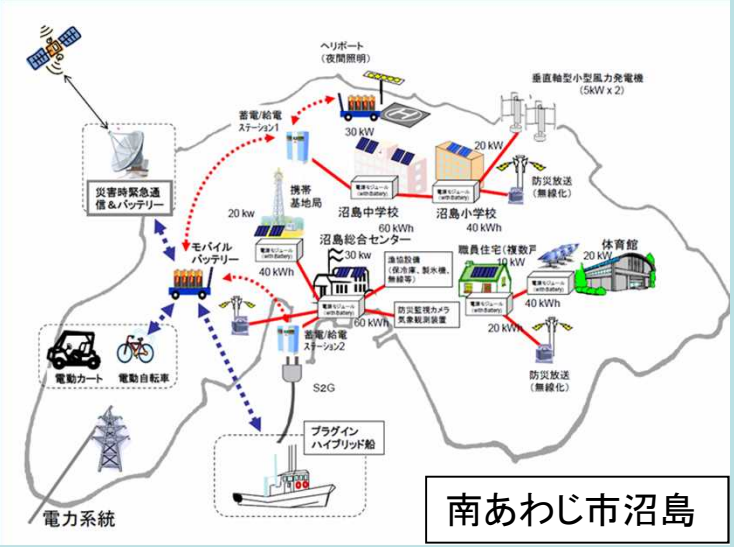
デンマークの
洋上風力発電施設

様々なバイオマスの複合利用

菜の花エコプロジェクトの蓄積を生かし、ウェット系からドライ系まで様々な資源を活用
（場所：洲本市）

ＢＤＦ精製装置
（ウェルネスパーク五色）

スマートコミュニティづくり



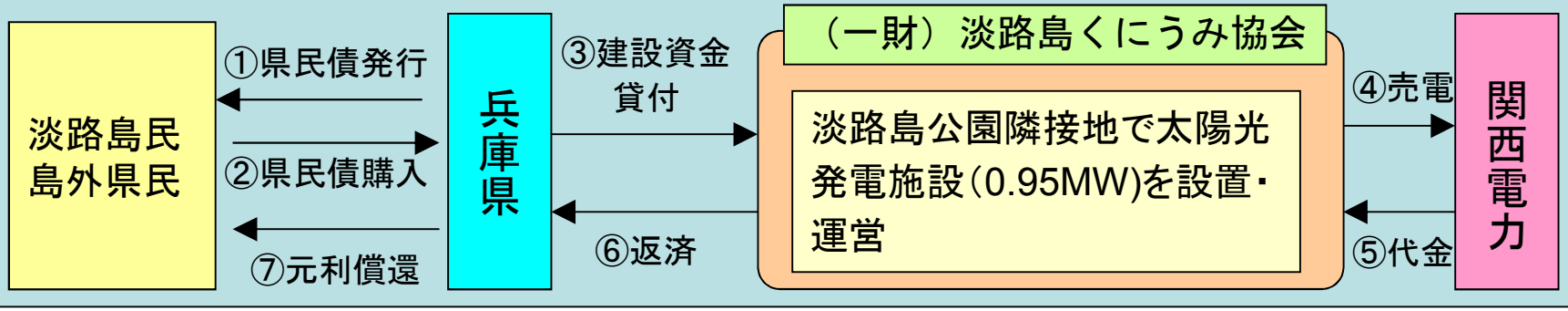
南あわじ市沼島

淡路夢舞台ニュータウン構想
「サスティナブル・パーク」

住民参加型太陽光発電事業の実施

県が「住民参加型県民債」を発行して淡路島内の県民から資金を集め、太陽光発電事業を実施するモデル事業を実施。

スキーム図



主なプロジェクト（農と食の持続）

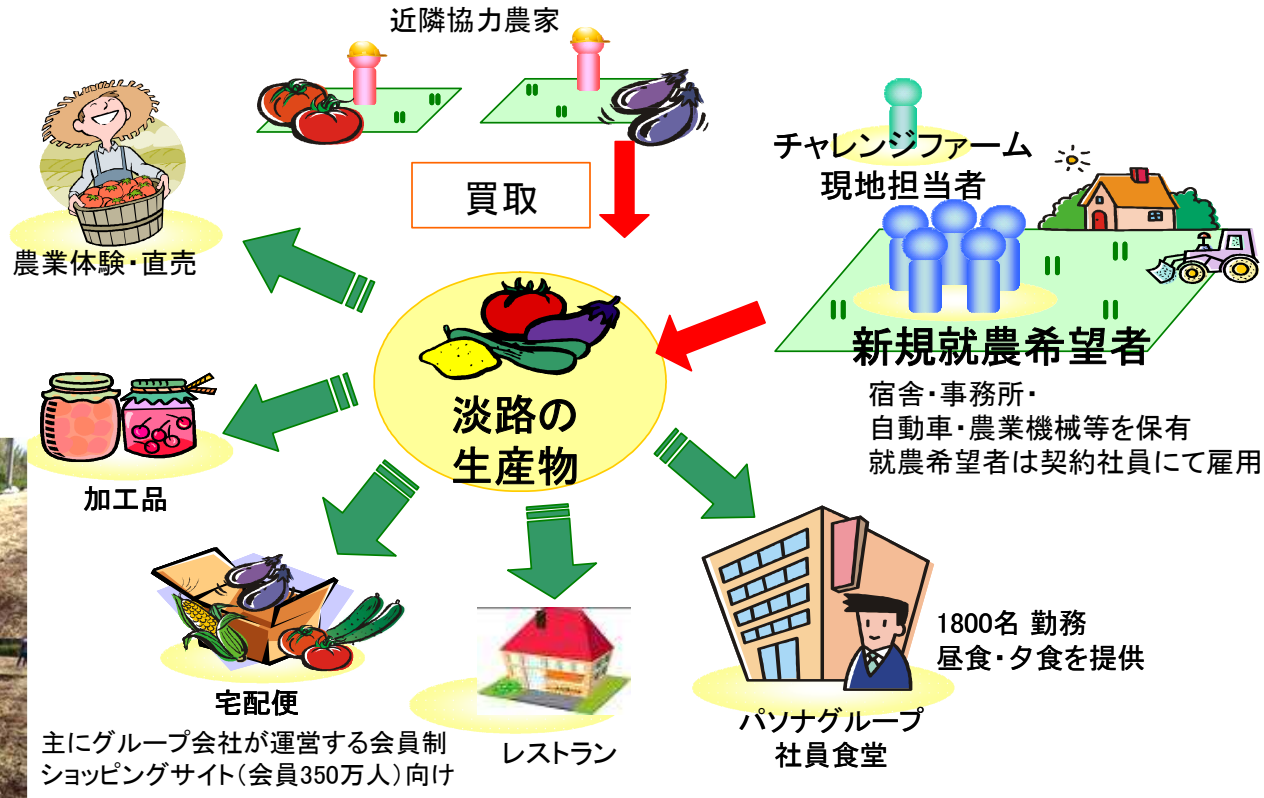
「チャレンジファーム」による人材育成

（株）パソナグループが開設した「チャレンジファーム」の充実を図るとともに、修了後の就農や地元定着に向け、耕作放棄地の活用や就農支援等を一体的に実施（場所：淡路市）

1年目：　農業の基礎的な知識・技術を身につけ、独立に向けたプランを構築。周辺地域との交流により地域農業の理解を深める。

2・3年目：事業運営を実践。1年目で作成したプランを実行し、独立に備える。農業経営の知識をより深める。独立後の販売先を開拓する。

4年目：　独立就農



廃校を活用した６次産業化のモデル施設の設置・運営

のじまスコーラ

廃校した小学校を活用し、地域活性化のシンボルとして新たな観光、6次産業化のモデル施設を運営（場所：淡路市）

漁船の電動化・ハイブリッド化による漁業のグリーン化

漁船のハイブリッド化と定点航行システムの実証のほか、完全電動船の実証を実施（場所：南あわじ市・洲本市）

完全電動漁船の航行実証（洲本市）

食の拠点施設の整備促進

「食を核とした都市と農村の交流拠点」をコンセプトとして、淡路島の豊かな食材をまるごと楽しく味わう、買う、体験する「南あわじ市あわじ島まるごと食の拠点施設」を整備

直売所（美菜恋来屋）

農を主軸とした地域再生の担い手を育成する大学学部との連携

平成25年４月に県立志知高校跡地に開校した吉備国際大学地域創成農学部と連携し、農業をはじめとする地域産業の振興への貢献などを通して、地域の再生に寄与する人材を育成（場所：南あわじ市）

主なプロジェクト（暮らしの持続）

高齢者にやさしい持続交通システムの構築

- コミュニティバスやデマンドタクシーなど超高齢化の進む農山漁村地域における持続可能な移動・交通のあり方を検討
- 新しい小型電動車両の開発・実証（場所：島内各所）

地域資源を生かしたしごとづくり

淡路地域雇用創造推進協議会が主体となり、淡路島の地域資源を生かして雇用の拡大と人材の育成を図る研究会「淡路はたらくカタチ研究島」を実施（場所：島内各所）

洲本市中心市街地における複合型福祉拠点の整備

旧県立淡路病院の跡地を活用し、特別養護老人ホーム、知的障害者向けの通所事業所やグループホームなどを備えた複合型福祉拠点を整備（場所：洲本市）

整備イメージ

県・市による支援

あわじ環境未来島構想推進事業

住民グループ、ＮＰＯ、企業、行政等が協働し、構想に沿って実施する先導的・モデル的な取組に必要な経費を補助（県、洲本市、南あわじ市、淡路市）

洲本市五色
BDF利用促進

南あわじ市沼島
地魚加工施設

淡路市黒谷五斗長
五斗長垣内遺跡

「ＥＶアイランドあわじ」の推進

電気自動車導入と充電器設置を併せて推進することにより、全県に先駆けたEV導入モデル地域として、「EVアイランドあわじ」を推進

電気自動車の導入促進

- 島内の事業者・個人が電気自動車を購入する際の経費を補助（県）
- 島内のタクシー、レンタカーをEVへ転換する経費を補助（県）

電気自動車用充電器の導入促進

県自らが県立施設等に急速充電器を設置し、次世代自動車の普及を促進（県）

あわじ環境未来島セミナーの開催

住民、地域団体、ＮＰＯ、企業等の連携、事業化検討の契機として、座学と現場学習を組み合わせたセミナーを開催（県）

デンマーク・ボーンホルム島との連携・交流

ボーンホルム島の位置

ボーンホルム島

あわじ環境未来島国際シンポジウムの開催
（H24.2.25：県立淡路夢舞台国際会議場）

デンマークのボーンホルム島から現地の副市長を招いて同島の取組を紹介。

調査交流団の派遣（H25.10.13～20）

引き続き再生可能エネルギーの活用などの分野で情報交換を続ける旨の覚書を現地の関係者と締結。

推進体制

あわじ環境未来島構想推進協議会
（総合特区法に基づく「地域協議会」）

設立総会（H23.10.21）

総　　会

アドバイザー【助言、ネットワーク化支援】
～第一線で活躍する有識者で構成～

企画委員会【総合調整と事業評価】
※主要地域団体・有識者・県・３市で構成

部会【事業化推進】
※地区別・テーマ別に産・学・公・地域で構成

参加　　参加

島内外52の事業実施主体
（民間企業、大学、公的機関、自治体）

連携
協働

島内50の関係団体
（事業に協力し、協働する島内地域団体・NPO・住民グループ）